

令和3年度 第2回文化財保存活用地域計画策定委員会議事録

日時：令和3年12月9日（木）午前10時～午前12時

会場：千代田区役所4階401会議室

出席者（敬称略）：

委員

【学識経験者】

谷川 章雄	瀬戸口 龍一	三友 奈々
山崎 鯛介	菊池 健策	
齋藤 慎一	田中 晴子	

【文化財保存活用支援団体】

鈴木 宏昌	太田 耕司	深野 恵津子
西秋 美岐子	三田 雅康	北島 敦子

【文化財所有者】

岸川 雅範

【商工・観光関係団体】

高山 肇	山崎 真理
------	-------

オブザーバー

小野口 史恵

行政委員

大矢 栄一	大塚 立志	夏目 久義
永見 由美	前田 美知太郎	
大谷 由佳	佐藤 武男	

事務局

高木 知己	山田 将之	相場 峻
駒場 梓	篠原 杏奈	濱口 皓
洲脇 朝佳		

配付資料：次第

資料1 千代田区内における文化財に係る現状・課題認識について

資料2 地域計画策定アンケート計画

資料3 千代田区文化財保存活用計画におけるアンケート調査

資料4 今後のスケジュール

議事内容

開会

1. 議題

(1) 千代田区における現状・課題認識について

～事務局より、千代田区における文化財に係る現状・課題について説明～

～意見交換～

(谷川委員長)

- ・大きく分けると指定文化財の問題、埋蔵文化財の問題、博物館の問題、いわゆる文化財行政の4つのファクターに関する課題がある。また、地域の特徴をどうするかについては、地域と文化財行政をどうつなぐのか。地域計画については、役所の中で他の部局とどのように連携するかという課題もある。
- ・最初に指定文化財の問題、埋蔵文化財の問題、博物館の問題について、検討する。

いわゆる文化財については、以下のような課題を抱えている。

- 文化財の裾野をどのように広げるか、優品だけでなく身近なものを文化財として大事にしようという考え方の問題。
- 文化財の対象について、いつまでの時代にするのかという問題。東京オリンピックの前までとする東京都の事例もある。千代田区にはまだ基準がない。
- 調査に関する問題。どのような文化財があるのか把握をして、指定など保護を図らなくてはならない。
- 江戸城の問題。千代田区においては重要な部分のため、計画に入れておかななくてはならない。
- 実施の管理や活用についての問題。これまで特に議論されてこなかった部分でもある。

【文化財の管理や活用の問題について】

(深野委員)

- ・文化財保護調査員は、文化財サインのパトロールを中心に活動しているが、千代田区の文化財や歴史に興味がある調査員が多いため、そのほかにも手伝えることがあるのではないかと思う。

(三田委員)

- ・千代田区や国、都などさまざまな主体が設置している案内板をきちんと把握

- し、一覧表に整理し、管理できているというのが重要ではないかと思う。
- ・千代田区の博物館の新設を希望している。

(谷川委員長)

- ・深野委員のご意見を聞いて、文化財に先端で接しているのが文化財保護調査員であることを改めて感じた。

(瀬戸口委員)

- ・文化財の標識について、都や大学、企業が建てたものも把握しているか。

(事務局)

- ・道路や公園に設置する場合については把握しているが、私有地に建てられたものについては、把握できていない。

(谷川委員長)

- ・今後全体として把握する必要があるのではないか。

(山崎副委員長)

- ・平成20年に実施した調査（文化財総合調査の予備調査）について、どのような内容か補足して説明していただきたい。

(事務局)

- ・平成20年の千代田区文化財総合調査の予備調査では、約1000件について調査を行った。その後、平成23年に細かく調査を進め、約1400件について調査をした。また、地域計画の直前に、平成23年の調査の再確認のため、令和2年に調査を実施している。

(谷川委員長)

- ・調査の内容については、個別議論の際に改めて提示してほしい。

(岸川委員)

- ・文化財の所有者としては、どのように知ってもらうかが大切だと思っている。指定していただきたい資料もあるので、こちらから話しかける方法があればよいと思う。

(谷川委員長)

- ・文化財の指定において、これは指定に値するのではないかという意見が区に寄せられることはあるのか。その場合、どのように対応しているのか。

(事務局)

- ・これまでも、所有者からの情報提供はあった。その際には、文化財保護審議会に調査を依頼し、指定に値するようであれば、指定を行っている。

(永見委員)

- ・直近では、麴町の町会から、代々町会に伝わる河鍋暁斎の幕絵について相談を受け、区で調査を行い指定されたという経緯がある。定期的にヒアリングをする仕組みはないが、相談は随時受けている。

(谷川委員長)

- ・地域の情報をいかに吸い上げるかが大事である。史跡や名勝に指定された場合は、固定資産税が減免になることも周知したほうが、結果として文化財を保存することにつながるのではないか。修理などへの補助の周知も必要である。一方で、推薦されたものを全て指定してしまうと混乱もあるので、指定の基準もきちんとつくる必要がある。

(鈴木委員)

- ・地名の由来だけでなく、その地域で起きた事件などについても書き添えたほうが、歴史の好きな方に興味を持ってもらえるのではないか。

(事務局)

- ・千代田区では、文化財サインとして現在 163 基を立てている。ただし、やみくもに乱立させてしまうと、景観を損ねてしまう点は懸念している。近年は、指定文化財に関するものを中心に設置している。設置の基準については、これからしっかり定めていかななくてはならないと思う。地域の方から声上がることもあるので、どのように対応していくのが今後の課題である。

(谷川委員長)

- ・全体的に戦略を立てなくてはならないと思う。住民の方からすれば、どこの部局が建てたかは関係ないので、縦割りではない対応が必要。

(高山委員)

- ・地域には古い写真がたくさん存在するが、所有者が亡くなり、資料が散逸してしまうケースが出てくるのではないかと危惧している。千代田区で管理をしていただき、デジタルアーカイブなど検索できるような仕組みを整備してほしい。図書館でも取り組んでいるようだが、一元的に管理すれば千代田区の財産になると思うので、ぜひ検討してほしい。

(永見委員)

- ・広報広聴課が、「ちよだ写真館」として、季節ごとの風景や、昭和 30 年代以降、10 年ごとの写真をホームページで公開している。一方で、観光協会写真展を開催していたり、文化振興課にも古い写真が寄贈されたりしており、それぞれの部署で管理しているのが現状である。

(谷川委員長)

- ・部局によって、収集の考え方が違うと思う。違う部局が集めた資料が、文化財として価値があることもありうるため、他部局との連携の問題も出てくると思う。写真資料は膨大であり、肖像権の問題もあるため難しいが、体系的に取り組む必要がある。

【埋蔵文化財について】

(谷川委員長)

- ・埋蔵文化財については、1980 年代の後半から調査が行われている。千代田区の場合は、面積はそこまで広くはないが、発掘調査に際し、出土してきた遺物をどのように保存・活用するのが必要になる。また、見学会がなかなか行われない中で、調査の状況をどのように知ってもらうかといった課題がある。

(永見委員)

- ・発掘調査については、『文化財研究紀要』の冒頭に、調査結果の報告を掲載しているほか、年に 4 回文化財ニュースを発行して、発掘調査の様子を紹介している。
- ・現場の見学会は、最近では行われていない。

(谷川委員長)

- ・近代については、発掘調査が積極的に行われていない。千代田区は首都東京の中心なので、近代は非常に大事だと思う。文化財の考え方と同じように、江戸以前が古いものと考えてしまいがちだが、近代についても調査を行うべきで

ある。

【博物館と地域との連携について】

(太田委員)

- ・博物館を訪れている小学校が8校中2校とのことだが、他の小学校は、江戸東京博物館に行っている。地域にきちんとした博物館があれば、そこを訪れることも増えると思う。地域めぐりや区内めぐりのコースを検討することも必要だと思う。
- ・写真資料について、小学校の社会科部会で副教材を作成する際に、昔と今を比較できる写真を町会にお願いして借りたという経緯があるため、アーカイブとしてどこでも見られるような状況になっているとありがたい。

(三田委員)

- ・私が以前勤務していた美術館は、地域に根差した美術館であり、学生を呼び込む工夫をしていた。開館後40年程経ち、美術館を訪れていた子どもたちが親の世代となっても、美術館といえばここだというイメージを持っている。だからこそ、区内に博物館があった方がよいと考えている。

(谷川委員長)

- ・地域に根差した博物館の持っている役割というのは、また江戸東京博物館とは違うかたちでありうると思われる。

(鈴木委員)

- ・千代田区で使われていない建物を歴史民俗館として運用してはどうか。戦前の資料を集めて展示する施設があれば、訪れる方々がいるのではないか。

(大矢委員)

- ・区政全般に関わる問題だが、千代田区の人口がこのところ急回復しており、小学校の教室が足りなくなるなどの問題が起きている。今までは低利用・未利用であった建物についても、今後は活用していかなければならないと考えている。
- ・個人の考えとしては、みなさんがおっしゃっているような博物館ないし美術館を作ればと思う。

(谷川委員長)

- ・博物館については、箱を作るだけでなく中身をどうするか、どのように運営し

ていくかが非常に大事である。

【地域的特徴について】

(谷川委員長)

- ・地域的特徴について、地域をどのように捉えたらよいのか考えたい。現在の町会や地域といった単位があるが、それらは近代の枠組みであるため、それとは異なる空間を認識していかなければならない。また、お住まい、お勤めの方の意識も非常に大事である。

(山崎副委員長)

- ・いわゆる江戸時代の町割を継承しつつ、その前後の地域性について、まずは分けて把握したうえで、それらを重ねたり、連続性を意識したりしながら考えていくのがよいのではないか。江戸以前についてどのように捉えるかについては、例えば、災害史を見てみるとよいと思う。情報が不足している状態だと思うので、近世と同じぐらい近代と近世以前の情報を集めたうえで、比較するのがよいと思う。水害や地震という観点から見ると、地域性の DNA になっている部分もあると思う。

(谷川委員長)

- ・地面の下に過去が埋まっているというように、過去が累積して現在があると考えると、具体的に認識することできると思う。抽象的に考えるのではなく、具体的な積み重ねから地域を考えるのが大事である。

(山崎副委員長)

- ・近代に限って言うと、地域性は地面の問題だと思う。既存の町割りを活かした地区改正事業があり、その上に関東大震災での帝都復興が行われている。重ね合わせることにより、いろいろな発見があると思う。

(谷川委員長)

- ・大学や美術館などとの関係も大事だが、どなたか付け加えたいことはあるか。

(瀬戸口委員)

- ・写真の問題も含めて、現在、各大学とも取り組んでいるが、各大学、各課、各地域という部分でバラバラになってしまっている。誰が何をしているのかをきちんと把握して、考えていく必要があるのではないか。それぞれ単体では、労力ばかりかかって成果が乏しくなってしまうため、大きな意味での連携を、

できれば区に主導してほしい。

- 地域的特徴については、千代田区史を作るためではなく、あくまでも文化財の地域計画のために考えるのであれば、これまでの歴史学的な部分だけではない捉え方を再考する必要があるのではないかと考える。

(谷川委員長)

- 連携にあたっては、区がハブになるのが理想だとは思いますが、すべてをお願いするのは難しいため、うまく協働しながら取り組んでいくのが一番よいと思う。

(鈴木委員)

- 地域的特徴について、千代田区は、もともと神田区と麹町区の2つに分かれていて、今でもコミュニティという部分でも少しキャラクターが違う。だから、神田・麹町という2つのエリアとして考えるのが、区民の気持ちの中にはあるのではないかと思う。

(谷川委員長)

- 旧15区単位というのは、江戸の単位がもとになってできていった部分もあるので、歴史的な積み重ねがあるということだ。

(菊池委員)

- 今回対象とする文化財は、千代田区にあるものなのか、千代田区で使われていたものなのかによって、資料の範囲が変わってくるため、議論しておく必要がある。文化財の種類によって価値付けの仕方が異なり、特に民俗文化財については、都市の民俗をどう捉えるのか定まっていない。
- 案内板について、文化財課が立てたもの以外についても、その記載内容が事実として受け取られるため、文化財がチェックをする必要があると思う。

(谷川委員長)

- 文化財の種類によって価値の捉え方が異なるが、一方では、地域の文化財は優品主義だけではもう立ち行かないと思っている。千代田区にとって大事なものは指定、登録していく必要があると思う。地域の文化財をどのように捉えるかという本質的な問題にも関わるので、いずれ議論をしたい。

(田中委員)

- 発掘調査について、事業者が自発的に取り組む場合は続きやすいが、他人や区から義務付けられることは続きにくい。丸の内のビルは、取り壊して新しくし

たいという意向が働き、本来保護したいものであっても、そのまま維持することができない。このような消えていくものに対して、どのように残していくかが非常に大切だと思う。

- 連携については、組織ごとに事情が異なり、意見をまとめるのが非常に大変だった。グループが大きくなったときに、千代田区がハブとしてうまくまとめるのは難しいのではないか。
- 見学先としてご要望があれば応えていきたい。また、既存の施設の活用についても、千代田区の文化の活性化のため、計画の中で応援していったらよいのではないかと思う。

(三友委員)

- 文化財の過去について話があったが、文化財の将来も気にかけている。文化財を将来も守っていくためには、現在、興味や関心が薄い区民の方にもご理解いただく必要があると思う。なぜ興味や関心がないのかと考えてみると、そもそも知らない、身近ではないという理由が大きいと思う。まずは、身近に感じていただく、知っていただく努力や取り組みが必要であり、将来的にも自分たちの地域の宝であって、守るべきものなのだと認識をしていただくことが大事だと思う。

(齋藤委員)

- 地域的特徴の設定については、できれば地域区分を細かくした方がよいと思う。地域にどのような歴史があるのかを理解するとともに、住民や周辺の方々にも、地域に即した特徴を伝えることで、資料の収集や新しい文化財の発掘につながると考えられるためである。
- 千代田区史の中で、時代ごとにどのような歴史や事象、文化があるのかを洗い出し、それを縦軸とし、仮の地域区分を横軸として設定し、整理してみるのが、まずは大事ではないか。
- 博物館で働いていると、新しい資料を収集していくと、資料が膨大になって収蔵庫が不足してくるという話をよく聞く。博物館は特殊な作りになっているため、中途半端に作ってしまうと利用者が利用しにくい建物になってしまう。博物館の新設する際は、あまり安上がりな方法では考えないほうがよい。
- 江戸城について、今回の活用計画のなかで、新しい公開を目指すような会議体を作るということも今回の計画の中で提案されてもよいと思う。

(谷川委員長)

- 地域区分は、住人あるいは勤務している方が実感できる地域から立ち上げるべ

きであるという考えは共感できる部分である。

- ・江戸城について、宮内庁と対話ができる状況になってきていると思う。今後のあり方について投げかけてみる、あるいはそのような姿勢を持つのは大事なのではないか。

(山崎委員)

- ・文化財サインについて、観光協会でも問い合わせをいただくことがあり、一覧があった方がよいと感じている。千代田区、観光協会、事業者が建てたものがそれぞれ存在し、非常にわかりにくいため、文化振興課とも協力して調査をしていきたい。
- ・文化振興課と観光協会が密接に関わっていくべきと以前から考えている。観光協会では、一般の方からも問い合わせがあり、こちらでも答えているが、さらに深く知りたい場合には、文化振興課に繋いでいる。どこまでをどちらがやるのかの判断が難しい。まず基礎資料を作ってから、観光協会や商店街がそれを活用しながら発信をしていかなければならないと思っている。そのための基礎資料も一緒に考えていきたい。

(2) 現状・課題認識を踏まえたアンケート等調査について

～事務局より、現状・課題認識を踏まえたアンケート等調査について説明～

(谷川委員長)

- ・事前に拝見して、設問や選択肢の表現で修正したほうがよいのではないかと感じたものがあった。各所に見られる「もの」という表現については、検討が必要。また問2について、「桐ダンス」が唐突感がある。

(山崎委員)

- ・区民向けアンケートの問2ですが、例えば、「15. 江戸城外堀跡」という言い方が少し堅いと思った。一般の方は「江戸城外堀跡」と聞いて、ピンとこないことがあると思うので、例えば、「お堀と石垣」などと表現してはどうか。また、行ったことや聞いたことがあっても、どこにあるのかが分からない可能性もあるので、マップがあるとよりわかりやすいと思う。

(谷川委員長)

- ・地図や写真を入れて、例えば、「江戸城外堀跡」の写真に堀と石垣が写っていれば、それでわかる。
- ・地図に落とせるものは落として、写真を貼付しないと、丸をつけるということ

にはならない。

(鈴木委員)

- ・アンケート用紙の配布などは、誰が実施するのか。

(事務局)

- ・千代田区在住の満 18 歳以上の方を住民基本台帳から無作為に選び、アンケート票を郵送して回答してもらうという形式を想定している。

(菊池委員)

- ・選択式のアンケート調査では、選択肢によって答えが誘導されてしまうので、根拠のある選択肢を用意していただきたい。また、問 4 の網掛けの部分については、実際に発送するときにも記載されているのか。

(事務局)

- ・記載したほうがよいと考えている。網掛けの部分は、文化財について尋ねるときに、一般の方は、文化財と言われてもわからないのではないかと考え、文化財の説明を入れている。

(菊池委員)

- ・例えば、問 4 の最後に「無形・工芸技術」として「桐ダンス」と表記されているが、正しくは「桐ダンスの製作技術」であると思う。説明文を付けるときに、確認をして間違いのないようにしていただきたい。

(谷川委員長)

- ・選択肢について、正しいものと、正しくないと思われるものを用意すると、正しくないものが選ばれない傾向にある。ただし、よいイメージの選択肢ばかりというのも問題なので、どのようにするか検討していただきたい。

(三友委員)

- ・区民向けの問 2、問 3 や、所有者向けの問 2 の選択肢は、どのような順番にしたのか。

(事務局)

- ・順番については、思いつくものから順に列挙している。複数人でどのような選択肢がよいか考え、そのなかで上がってきたものを追加している。

(三友委員)

- ・選択肢がバラバラに並べられている印象があるため、配慮していただいたほうが良いと思う。また、区民向けアンケートの間3や所有者アンケートの間2についても、選択肢が多すぎると、上位の選択肢を答えがちになったり、それが区の考えではないかと思われたりする懸念がある。区民向けアンケートの間3で、選択肢01や08はポジティブなこと、選択肢03から07はネガティブなことが書かれており、そのあたりの順番についても配慮していただいたほうが良いと思う。

(瀬戸口委員)

- ・文化財とは何かについては、頭紙に記載したほうがよいと思う。アンケートに入る前に説明しておかないと、調査の意味や意義が、回答者に伝わらないのではないかと思う。

(事務局)

- ・アンケートの頭紙が長いと、読んでもらえなくなるのではないかという懸念があった。例えば、文化財とは何かという資料を別途付けるなど検討しようと思う。

(瀬戸口委員)

- ・文化財とは何かという資料をそのまま添付すると、一般の方にとっては難しく感じると思う。

(事務局)

- ・説明が要らないような設問にするなど、工夫して対応したい。

(菊池委員)

- ・問3と問4の間の網掛けの部分で、「文化財とは、人類の生活の中で出された遺産」とあるが、今日の追加事項で配られた資料5の書きぶりと違うため、整合を図ったほうがよいのではないかと思う。

(谷川委員長)

- ・資料5は、どこかから抜粋してきた資料か。

(事務局)

- ・資料5は、文化庁のパンフレットから持ってきたものである。網掛けの部分

は、文化財保護法の記述をベースにしながら作成したものである。

(谷川委員長)

- ・網掛けの部分の文章をもう少し練っていただき、それを「ご協力のお願い」のところうまく入れるとよいと思う。「区としても、適切に守り、活用し」という部分については、「千代田区に暮らしている方々と共に」などの文言を入れておかないと、区に対してどう思うかとなってしまったと思った。

(北島委員)

- ・区民向けアンケートの問6について、「02. 展示・講座などの普及啓発教育活動の充実」は、図書館のギャラリーの活動などに重なってくると思う。区民の方向けのアンケートということ意識して、文化財をもっと身近に感じるための文言にしたほうがよいと思う。

(谷川委員長)

- ・いただいた意見をもとに、修正したものを先生方にお配りして、確定したら実施するというかたちにさせていただきたい。

2 その他

- ・次回の日程等の事務連絡

以上